

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202403		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム 桜の詩	ユニット名	1階
所在地	静岡県静岡市清水区船越町13番地		
自己評価作成日	平成25年9月10日	評価結果市町村受理日	平成25年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosvoCd=2274202403-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成25年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天気の良い日は散歩に出掛けたり、テラスに出て外気浴を楽しんでいます。レクには力を入れ、ホールでトランプやカルタ取りで入居者様同士の交流をしています。音楽療法としてカラオケやキーボードに合わせて合唱したり、毎月大きなカレンダー作りでは貼り絵をしています。公園の緑の中で四季を感じながら、のんびりと暮らしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桜の名所に隣接しており、自然豊かな場所に立地している。恵まれた散歩コースと広い駐車場を利用して、ベンチでの日光浴や歩行練習・散歩等、外出の機会が多い。南向きで日当たりが良く明るい居間で、笑顔で接する職員の介助で利用者はゆったり過ごしている。運営推進会議は、年間計画に沿って2ヶ月に1回開催され、自治会長や民生委員・地域包括支援センター・協力医・家族に加え、市担当者も年1回参加しており、努力の跡がみられる。利用者のほとんどが、毎月1回往診をする協力医を受診し、また従来からのかかりつけ医を継続する利用者については家族同伴が困難な時は職員介助を行っており、受診支援は手厚い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である、笑顔で明るい毎日であるよう支援している。地域の人達とのふれ合いを大切に、その人らしい生活が出来るよう温かな心で支援している	理念「利用者笑顔のたえない明るい毎日を支援し続けます」に、職員の意見で具体的な項目を加えた。玄関や事務室・居間に掲示し、職員は申し送り時等に掲示を見て、日々のケアに反映されているかを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	組合に入会し、地域の避難訓練やお祭りに参加している	自治会に加入し、回覧板の回付もある。地区の夏祭りや秋の「ふれあい祭」へ利用者や職員が出掛けており、町内のバザーへの出品やビン・カン回収にも協力している。散歩時に地域の住民と挨拶をしている。	行事への参加や散歩時の住民との挨拶、高校将棋部員のボランティア受入れ等、地域との交流を広げているが、ホームへの来訪が少ないので、日常的交流を深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でホーム内の様子を伝えている 地域の行事に入居者様と参加することで認知症の人の理解に繋がるように心掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4土曜日と定め開催している 会議内ではホームの様子を毎回伝え、質疑応答している。ホールに写真を貼り日頃の様子を分かり易く伝えている	年間計画で2ヶ月に1回開催し、自治会長や民生委員・地域包括支援センター・協力医・家族に加え、市担当者も年1回参加している。ホームの近況、委員会活動報告のほか参加者からの質問もあり、サービス向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の年間予定を通知し、出席していただいている	運営推進会議に市担当者が年1回参加するほか、市へ書類提出に出向いたり、書類に関する質問等のため電話することも多く、連絡を密にしている。また、生活保護の利用者の関係で市担当者の訪問が年3~4回ある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に出向いたり、定例会、ケアカンファレンスなどで身体拘束について話し合い、間違った知識を持たないように努めている	「身体拘束0宣言」をしており、管理者は職員に五感を使って見守りをしっかりするよう指導している。ホーム内研修の実施や、マニュアルを作成し、職員に配布済みである。玄関扉は日中施錠せず、見守りを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や社内研修等で学んでいる。 言葉遣いなどは日頃より職員が互いに気をつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については理解している職員は少なく、この機会に学び理解を深めていきたい。 制度を活用している入居者様は数少ない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の不安や疑問には誠意を持って対応し、具体的に説明をさせていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族の意見、要望は日頃より話しやすい雰囲気作りを心掛けている 玄関ホールにご意見箱を用意している 運営推進会議等でご意見を伺っている	運営推進会議や「さくら祭」等の催事や食事会・来訪時や電話時に、家族等の意見・要望を聞き、運営に反映するよう努力している。また「桜の詩通信」と個人別月報で利用者の様子を家族等に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や定例会等で職員の意見や提案を聞き、管理者会議等で話し合っている	月1回開催の職員の定例会や月1~2回開催するカンファレンス・日々の申し送りに加え、介護のその場その場で職員の意見を積極的に聞いている。また、委員会活動で職員の自発的提案があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定例会等で就業環境の改善等話しあっている。また研修への自主参加や資格取得を勧め、やりがいや向上心を持てるよう努めている 資格取得による昇給がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	受講できる研修内容を掲示している 職員が社内研修を受講した後、ホーム内研修を行い学んでいる。訪問看護師によるその場での質問、指導やホーム内研修も行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議への出席や、定期的に関催される、協力医による勉強会に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	希望されている暮らし方、生活習慣等を伺い安心して生活できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談を行い、ご家族の諸事情を踏まえ、安心してして頂けるよう話し合いを行なっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族と話し合い、介護計画を立て必要なサービスを提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の食器拭き、洗濯物の整理、庭掃除等、個々の作業能力により分担し、職員と一緒に家事を行なっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との面会を自由にできる事や電話で話すことも支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年間の行事予定を組み、ご家族の参加を促している。ご家族等の面会や外出も自由に出来るよう支援している	知人・友人の来訪や電話連絡がある。家族とともに、あるいは職員同行で法事や墓参り・結婚式に出席する利用者や家族との正月旅行に行く利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トランプ、かるた、外食会、誕生会、散歩等、全員参加で交流し楽しめるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方が次の施設に入居する時には、当ホームでの情報を提供している。その後も状況に応じ連絡や、季節の挨拶状等出している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動や状態から、困っていることなどを把握し、ご本人に合ったケアができるよう努めている	本人から、意志疎通が困難な人は家族や関係者の聞き合わせから、また日常の利用者と職員の触れ合いから思いや意向を把握している。本人本位に検討し、書道教室の送迎など出来る限りの支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントを出来るだけ詳しく記入し、入居後は本人やご家族との会話や面談等で情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスを設け日常の情報や言動の変化を記録に残し、職員が其々に持つ情報を共有するよう努めている。また日々の様子をご家族に毎月、文書や写真で報告している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様の意見や状況を聞き取り、介護計画に反映している	個々の担当職員のモニタリングを基に本人や家族の意向と医師や看護師の助言を添えて関係者がケース会議で検討・共有され支援に繋げる。現状に即した介護計画の作成にそれぞれの意見の反映がうかがえる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録だけでなく申し送りノートなどでも情報を共有し、その時に合ったケアができるよう話し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多数の入居者様が、月1回ホーム内で受診している。突然の受診で家族が出来ない場合は職員が出掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1~2ヶ月に一度のペースで、近隣の美容師によるヘアカットがボランティアで行なわれている。近隣の高校の学生が将棋ボランティアとして月に2~3回来てくれている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医をご家族から伺い、ご家族の意向でかかりつけ医を決めている	入居前からの担当医、事業所の協力医など本人や家族が納得された医師を個々のかかりつけ医とし、月1回の往診にて健康管理を図る。体調異変時の往診や通院の同行など医療の受診支援に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護の際、入居者様の様子や変化を伝え、適切な指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師との情報交換を行なっている。お見舞いも兼ねて病棟に出向き、体調や食事の様子を見たり、主治医から現状説明を聞き、相談等をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医と話し合い、ホームでできる事とできないことを説明した上で今後の方針を決めている。	重度化した利用者は家族と話し合い協力を得ながら出来る限りの支援は行っているが、終末期ケアの事例は無く、職員にも若干の不安は残る。入居時に本人や家族には事業所で出来る範囲の説明し、同意は得ているが、更なる事前の取組みが課題として残る。	重度化や終末期の利用者が施設ケアを望まれる事を想定し、医師や家族の更なる理解と協力を働きかける。また職員に向けた応援体制の整え、意識の向上、マニュアル化など、事前の取組みを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを配置し、全ての職員がすぐに対応できるように努めている。防災、避難訓練、心肺蘇生の訓練等を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震時の対応マニュアルを配置し、全ての職員がすぐに対応できるよう努めている。防災、地震時訓練は月1で行なうようにし、年に1度は消防署員立会いの訓練を実施している。	防災委員を中心に全職員が対応出来るよう月1回訓練を実施、消防署員が参加することもある。火災や自然災害にも取り組みそれぞれがマニュアル化され、水や食料品などの備蓄もあり災害対策に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人に聞かれたくないような内容は場所を考えて話すようにしている。家庭的な中にも入居者様を尊重し、年上の先輩であることを意識して接している	利用者の行動をせかすこと無く管理者、職員共にゆったりとした言葉掛けと傾聴に努めている。常に年長者であることを意識し職員間の会話も場も選ぶなど配慮され、人格の尊重とプライバシー保護への取組みがうかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の気持ちを考え意見を傾聴している。時にはアドバイスも行なっているが、職員本意にならないように気をつけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆様と一緒に居たい方、自室でゆっくり過ごしたい方等、思いは其々違い、その時々で声掛けしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る方は見守り、そうでない方には声掛けして促し、介助している。清潔が保たれるように心がけ、季節に合った装いを勧めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見守り、声掛けをしている。時には外食に出掛け、食を楽しめるように努めている 食後の片付け等は個々に応じ出来ることをして頂いている	食材購入や調理・食器洗い・調理法を職員に教えるなど個々の力を活用。起き掛けに飲む牛乳や毎朝食のヨーグルトは服薬に頼らない自然排便に繋がる。献立や調理法からも楽しめる食事への取組みがうかがえる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や好き嫌い等を把握した上で支援している。医師や訪問看護師に相談しつつ、本人の状態や習慣に応じた栄養摂取、水分確保の支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの見守り介助、義歯の洗浄・消毒等の支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員全員が排泄表をチェックし、排尿排便の誘導を行なっている。排泄状態によっては夜間のPTイレ使用やリハビリパンツから布パンツに替える支援をしている	退院時のオムツ着用者は徐々に入院前の状態に戻る。入所当初の放尿者も排泄パターンを把握し声掛けと誘導を重ね放尿が無くなる。同様に紙パンツ使用者も布パンツに変わるなど利用者の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に牛乳とヨーグルトを提供している。ご飯は水分量を多くし、副食は消化しやすい材料や調理方法も工夫している。服薬だけでなく、毎朝の体操や個々に合った運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏期はシャワー浴を取り入れ清潔を保っている。入居者様によっては入浴日を指定される方がいるので希望に添うようにしている。	週3日、13:30~15:30を予定しているが、曜日や入浴の可否は本人の希望に添う。拒否者も無理強いせずにタイミングをはかる。浴槽の湯は個々に替え浴室と脱衣所も清潔である。個々に添う楽しめる入浴支援がうかがえる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝時間はほぼ一定している。起床は本人の意思に任せている。午後には一定の休息時間をとっている。室内のエアコンは適時調整し、室温を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当をきめて管理をしている。服薬ファイルを用意し、確認が出来るようにしている。誤薬を防ぐ為、服薬の際は職員同士が声を出し合って確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合った家事を分担し、なるべく全員が行なえるようにしている。ケアプランに沿い、本人の希望を取り入れた支援を工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	数人に分けて外食や季節の行事(初詣、七夕など)に出掛けしている。職員と入居者様と少人数でドライブや喫茶店等に出掛けることもある。家族との外出も支援している	施設周辺は木や草花に覆われ遊歩道も整備されている。天候が許す限り午前中は散歩に出掛け自然との触れ合や季節感を楽しんでいる。ラーメンや蕎麦等の外食や100円均一の買い物同行、家族の協力依頼など個々の希望に添った外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人が必要なお金は預かり金としてホームが管理していますが、小銭をご本人が所持している方もいます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	早朝や深夜以外であればいつでもご家族に電話できるように支援しています。季節の挨拶状をお出しする支援をしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を飾っています。居間には毎月季節の大きな貼り絵カレンダーや行事の写真を飾っています。居間や廊下、脱衣室等過ごし易い温度設定を心掛けています	玄関に清楚な生け花と置物が置かれ、扉や壁・トイレ等施設全体が7～8年を経ても美しい。ホールに飾られた利用者の写真や食堂の花、また、直射日光を遮る窓覆いにも季節感が漂う。長椅子に横になり寛ぐ利用者など居心地良さへの配慮がうかがえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスに椅子が置いてあり入居者様同士がいつでも談話できるようになっています。お一人でも外の景色を眺めることができる空間になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅からタンス、机、椅子等自由に持ち込んで頂いています。仏壇も自由に持ち込んで頂いています。	箆笥や机・椅子・仏壇などの使い慣れた物が持込まれた今までの生活に近い状況で整られた居室、またシンプルな居室など様々である。本人や家族の思いに添った落ち着いた生活出来る個々の居室作りへの工夫がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は全てバリアフリーになっています。車椅子のまま入ることが出来るトイレや自動水洗になっています。1Fのテラスも段差は無く安全に自由に行き来できるようになっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202403		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム 桜の詩	ユニット名	2階
所在地	静岡県静岡市清水区船越町13番地		
自己評価作成日	平成25年9月10日	評価結果市町村受理日	平成25年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&Jigvsvocd=2274202403-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成25年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

船越公園の脇に建っている立地条件の良さを生かして、天候が許す限り散歩に出たり、野外でお茶を飲んだり、季節の移ろいを感じ、地域の方々と接し社会参加している。またホームないでもレベル低下を防ぐべく、残存能力を活用し家事全般に関わって頂いたり、入居者様同士でのカルタ取り等を楽しんで頂いています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である、笑顔で明るい毎日であるよう支援している。 地域の人達とのふれ合いを大切にし、その人らしい生活ができるよう温かな心で支援している	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のおまつりなど行事に参加している 散歩、外気浴などで地域の人達とのふれ合いに努めている ビンカン回収当番に出ている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でホーム内の様子を伝えている 地域の行事に入居者様と参加することで認知症の人の理解に繋がるように心掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4土曜日と定め開催している 会議内ではホームの様子を毎回伝え、質疑応答している。ホールに写真を貼り日頃の様子を分かり易く伝えている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の年間予定を通知し、出席していただいている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が理解し取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等の場をしばしば設け話し合い注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については理解している職員は少なく、この機会に学び理解を深めていきたい。 制度を活用している入居者様はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の不安や疑問には誠意を持って対応し、具体的に説明をさせていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族参加の場を持ち、意見や要望を言い易い関係性を持っている 本人や家族の要望等、出来る限り意向に添うよう努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や定例会等で職員の意見や提案を聞き、管理者会議等で話し合っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定例会等で就業環境の改善等話しあっている。また研修への自主参加や資格取得を勧め、やりがいや向上心を持てるよう努めている 資格取得による昇給がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	受講できる研修内容を掲示している 職員が社内研修を受講した後、ホーム内研修を行い学んでいる。訪問看護師によるその場での質問、指導やホーム内研修も行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議への出席や、定期的開催される、協力医による勉強会に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限りご本人の要望に添うよう、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いの中で、家族の精神面や肉体面にも不安が取り除ける努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を考慮しながら、時には他のサービスを利用し、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームと言う場でもあり、互いに家族の一員として、協力しながら親しい関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援内容をご家族に相談しつつ、御本人とのふれ合いの時間を設けるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事には、ご家族の参加をお願いしている。面会や外出は自由に出来るよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	親しい人同士の語らいの場や全員で楽しめるようなレクリエーションや企画の機会を多く持つよう心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方が次の施設に入居する時には、当ホームでの情報を提供している。その後も状況に応じ連絡や、季節の挨拶状等出している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思を表す事の出来る入居者様の場合は、問題のない範囲で希望が叶うよう努め、意思確認の出来ないときは、その方の立場で動いている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	持ち物や習慣等、慣れ親しんだ生活環境が維持できる様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人なりの生活リズムを重視して見守り、残存能力の維持に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて話し合いの場を持ち、個々の入居者様にとってより良いケアが出来るよう実践を通じて計画の見直しに努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいたことは、記録すると同時に、申し送りをし情報は共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化していく個々の状況に対し、その都度話し合い、柔軟に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1~2ヶ月に一度のペースで、近隣の美容師によるヘアカットがボランティアで行なわれている。 生涯学習センターへお稽古に出掛けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望とする医療機関で受診できるようになっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の訪問看護のほか、気になるところや普段と違うと気づいたときは、ナースセンターに連絡し相談している。あるいは受診をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師との情報交換を行なっている。 お見舞いも兼ねて病棟に出向き、体調や食事の様子を見たり、主治医から現状説明を聞き、相談等をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医と話し合い、ホームでできる事とできないことを説明した上で今後の方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AFD講習会に積極的に参加するよう職員に働き掛け、社内研修でも行なっている。急変時の対応等マニュアル化している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練や地域における防災訓練に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	礼を欠くことのないような言葉掛けももちろんの事、入居者様の人格を重視して対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いする事のないよう、ご本人の希望を重視している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調やその方のペースに合わせて職員サイドからの押し付けや決めつけはしないよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立意思を持っている入居者様には、自身の満足がいくよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存機能を生かしながら、出来る範囲の下ごしらえや食器拭き等をしていただいている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食・副食の摂取量、水分量等24時間を通じて把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で出来る方への見守りも怠らず、介助の必要な義歯の取り外しから洗浄・消毒、口腔内の洗浄を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を把握して、トイレへの誘導や言葉掛けに努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳や散歩、運動等でなるべく薬に頼らない排便を心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入りたい、入りたくない等の本人の希望を重視するものの、夜間の入浴希望に関しては、夜勤者一人での対応では出来ない		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思を尊重し、体調を考慮しつつも、昼夜逆転などにならぬよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月の往診やその時々々の受診により増減する薬の数や目的はしっかり理解し、服薬支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の能力に応じ、習字に出掛けたり、ゴミ袋を作ったり、洗濯物を置みながらのコミュニケーションやカルタ取りなどの気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	緑の多い公園の脇に建っている利点を活かし季節感や自然を感じとることができるよう天候が許す限り散歩に出掛け、何かの折につけ外食やドライブをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人が必要なお金は預かり金としてホームが管理していますが、入居時に持ってきた小銭をご本人が所持している方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話にて家族と話したり、親しい方々に葉書を出したり、または頂いたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を飾っています。居間には季節貼り絵飾っています。居間や廊下、脱衣室等は過ごし易い温度設定を心掛けています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにおいての自席のみならずソファにて気のあった方々が寛げる場所を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談の上、ご本人が馴染んだもの、好んでいる物などを居室に入れて頂いている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は全てバリアフリーになっている。車椅子のまま入ることが出来るトイレや自動水洗になっている。居室は花の名前や目印を付けてある		